

第34回 ろうきん運営委員トップセミナー

『FinTechがもたらすライフスタイルの変化と職場・地域金融機関の役割』

木付立思氏 日本アイ・ビー・エム(株) グローバルビジネスサービス事業 FinTech推進グループ パートナー



お客様に選ばれる金融機関であり続けるために FinTech(フィンテック)とは、金融業界のみならずライフスタイルを変えるイノベーションとして注目されている、金融(Finance)とテクノロジー(Technology)を組み合わせた造語です。日本で注目され始めたのは2015年頃。週刊金融財政事情に掲載された特集「フィンテックを取り込み」がこの用語を日本の金融業界で一般化させました。

今日では、イノベーション創出を目的とした様々なビジネスコンテストをメガバンクや地方銀行が開催するなど力を入れています。金融とITの融合により、人工知能を活用した資産管理、携帯電話番号を利用した決済・送金、決済端末としてのスマホ・タブレット活用など様々な金融サービスが登場しました。

今後、FinTechによる新しい便利なサービスが次々と生まれてきます。金融機関はそれらを組み合わせることで、顧客向けに使いやすく提供することが求められます。お客様から選ばれる金融機関となるためには、FinTechと上手に付き合っていくことが鍵となるでしょう。

張つてまいりませう。

2月7日(火)ホテルセンチュリー静岡(静岡市)にて、県内各店運営委員会の運営委員長、副運営委員長などの代表者約160名の皆様により、「第34回ろうきん運営委員トップセミナー」が開催されました。



鈴木 信雄 実行委員 (静岡支店運営委員長)

個人取引をターゲットとした金融市場の競争は、厳しくなっています。働く方々の「幸せと笑顔」をつくるため「働く人」としっかり向き合い、信頼され、選択される(静岡ろうきん)を実現した結果、第2期中計「TRY(トライ)」の2年目として目標達成に確実に近づいてきております。



古川 正明 理事長
「誇り」と「自信」をもって労働運動を!

今年に入りアメリカでは、強力な推進力を持つトランプを求めるとの支持により新しい大統領が誕生いたしました。しかし、まだ大統領の政策への批判も止まず、方向性が見えてまいりません。では、今の日本はどんな社会を求めているのでしょうか?各支店運営委員会の中でトランプとしての役割を担っている皆様におかれましては、運営委員会の活動で強い推進力を持った取組みが良いか、それとも皆で協議し合っていくのが良いのか日々お悩みのことかと



大石 雅邦 実行委員長(静岡中央支店運営委員長)

バランスの良い運営委員会の推進を目指して

1月10日から3週間各支店の運営委員会に労働役員が参加しました。各運営委員会はそれぞれ知恵を出し合い工夫された活動が展開されており、会議における議論を通じて真剣さもよく伝わりました。そして皆さんの力が(ろうきん)を支え動かしている源泉であることを実感するとともに、働く方々の「幸せと笑顔」を作るといふ共通目標をもつて積極的に運営されている様子を見ることができ感謝しております。利益を目的としない(ろうきん)にとっては数字ばかりが取組みではありませんが、利用する皆さんが「より利用いただきやすい」ように、ライフイベントに沿った商品サービスを提供すること、かつタイムリーに提供することのバロメーターとして数字も大事と考えています。

トップに就く人は「立ち位置」「推進力」「協調性」の三要素のバランスが良いのは永遠の課題ではありませんが、そのあたりにご留意いただきながら、運営委員会の推進をいただければと考えています。

今年度のセミナーの新しい取組みとして、例年の分散会を「ミニセミナー」という形に変更し、実務的な8つのテーマによるセミナーのうちそれぞれ3つのセミナーにご参加いただくことといたしました。ご参加いただき感じたことや疑問に思うことを持ち帰って運営委員会の中で議論し、それぞれの支店における来年度の活動方針を決める上でのヒントにしていただければと考えています。本日はよろしくお願いたします。

トップに就く人は「立ち位置」「推進力」「協調性」の三要素のバランスが良いのは永遠の課題ではありませんが、そのあたりにご留意いただきながら、運営委員会の推進をいただければと考えています。

気をつけなければならぬことは、金利で呼び込んだ数字は、他行の金利が上回れば他行に預金融資とも流れて行ってしまふことです。本当に使う人の立場にたつてお役に立つことを考える(ろうきん)の理念は他行に絶対負けておりません。店舗の少なさもコンビニを中心としたATM提携の拡大、さらにご利用されたATM手数料のフルキャッシュバックで弱点を克服しています。労働運動を継続し広げることにより、更に明るい社会を作ることができると考えます。そのことには是非「誇り」と「自信」を持っていただきたいと思っております。今後も共に頑張つてまいりませう。

第2期静岡ろうきん中期計画「TRY」の基本目標は「ろうきんの理念の実践」ということに置き、働く人として向き合い、信頼され、選択される(静岡ろうきん)を目指します。また「事務改革」「営業改革」「人事改革」を柱とする経営改革に取り組みすることで、安定的な事業基盤の構築を図り、働く人にもっとも身近な福祉金融機関として労働運動をさらに発展させていくことを基本戦略としています。



戸倉 亨 専務理事
2017年度事業計画アクションプラン(案)

2016年度は中期計画の中間年度ですが、主要な数値目標(2018年3月末現在)である「預金残高1兆円以上」「預かり資産販売額300億円以上」「融資残高6700億円以上」「OHR(業務粗利益経費率)90%未満」の2016年度末におけるそれぞれの数値目標は無事に達成する見込です。2017年度の実績を踏まえ、2017年度は「TRY」総仕上げの最終年度として、中期計画で定めた経営改革を推進するとともに、「5つの基本戦略」を完遂します。また、「働く人の幸せのために」という基本的な思いを皆様方と共にしながら一緒に運動を展開すること、ろうきん理念の実践につとめていきたいと考えています。

(ろうきん)の特徴である人間的な「人対人」の活動を通して、「もはや(ろうきん)は必ずしも必要ではない」というようにはならないように進めてまいります。営業推進の考え方に掲げる「知覚考者!」ともかく「ごこう」の言葉に象徴されるように改革、変わる、積極的に行動しようという事です。

2017年度事業計画アクションプランにもとづく営業推進の考え方(案)

2016年度は中期計画の中間年度ですが、主要な数値目標(2018年3月末現在)である「預金残高1兆円以上」「預かり資産販売額300億円以上」「融資残高6700億円以上」「OHR(業務粗利益経費率)90%未満」の2016年度末におけるそれぞれの数値目標は無事に達成する見込です。2017年度の実績を踏まえ、2017年度は「TRY」総仕上げの最終年度として、中期計画で定めた経営改革を推進するとともに、「5つの基本戦略」を完遂します。また、「働く人の幸せのために」という基本的な思いを皆様方と共にしながら一緒に運動を展開すること、ろうきん理念の実践につとめていきたいと考えています。

2016年度は中期計画の中間年度ですが、主要な数値目標(2018年3月末現在)である「預金残高1兆円以上」「預かり資産販売額300億円以上」「融資残高6700億円以上」「OHR(業務粗利益経費率)90%未満」の2016年度末におけるそれぞれの数値目標は無事に達成する見込です。2017年度の実績を踏まえ、2017年度は「TRY」総仕上げの最終年度として、中期計画で定めた経営改革を推進するとともに、「5つの基本戦略」を完遂します。また、「働く人の幸せのために」という基本的な思いを皆様方と共にしながら一緒に運動を展開すること、ろうきん理念の実践につとめていきたいと考えています。

2016年度は中期計画の中間年度ですが、主要な数値目標(2018年3月末現在)である「預金残高1兆円以上」「預かり資産販売額300億円以上」「融資残高6700億円以上」「OHR(業務粗利益経費率)90%未満」の2016年度末におけるそれぞれの数値目標は無事に達成する見込です。2017年度の実績を踏まえ、2017年度は「TRY」総仕上げの最終年度として、中期計画で定めた経営改革を推進するとともに、「5つの基本戦略」を完遂します。また、「働く人の幸せのために」という基本的な思いを皆様方と共にしながら一緒に運動を展開すること、ろうきん理念の実践につとめていきたいと考えています。

創業の趣旨、運営内容からも(ろうきん)は働く人のための唯一無二の金融機関です。目指すところは、働く人に生涯笑顔で安定した生活を送っていただくことです。(ろうきん)の役割として、会員・組合員の皆さまの体をしっかりと把握することから始まり、会員・役員全員の面談あるいは営業店マネジメントの向上を図つてまいります。営業店ばかりでなく本部を含めて、中期計画最終年度を充実した一年とすべく取組み覚悟です。

預金・預かり資産・融資等の推進につつましても単に商品販売するのではなく、商品により提供できる付加価値を売ること意識した取組みといたします。給与振込の指定、財形年金の拡大は元より個人型DC(D-DeCo)、投信のインターネット取引、融資関連システムの導入など新たな商品サービスを含め組合員・働く人に利用・活用いただくために運営委員の皆さまと連携して取り組んでまいります。

ミニセミナー開催

「働く人として向き合い、信頼され、選択される(静岡ろうきん)」の1つの「カタチ」として、この中期計画期間に各地域で実践されてきた様々な情報提供(各種セミナー)のミニ版(20分バージョン)を8コンテンツ用意いたしました。

参加の皆様には、今後の地域、支店、運営委員会、各会員における情報提供の実践に向けたイメージづくりに繋げて頂くことを目的として、事前に自ら選択したセミナーを聴講頂きました。参加後の感想では、「ぜひとも、運営委員会・支店でミニセミナーを実施したい。自らの組織でも職員を呼んでみたい。」といった声が多く聞かれました。

セミナータイトル

- ろうきんダイレクト活用術
- 退職準備世代向けセカンドライフ
- 日経新聞の読み方
- 個人型DC
- はじめての投資信託
- 多重債務相談
- 住宅ローンの選択方法
- 進学準備